



モグラはどうして土の中つち なかにいるの

生き物い ものは生きるために、すみわけい わをする

モグラは、生き物の進化い もの しんかの中では、最後さいごに現れた、ほ乳類にゅうるいの仲間なかまです。しかし、ほ乳類にゅうるいの中では、どちらかというなかと、まだ進化しんかの進んでいない、は虫類ちゅうるいに近い仲間なかまです。

生き物い ものは、植物しょくぶつも動物どうぶつも、強いものが、生活せいかつしやすいよい場所ばしょを占領せんりょうしていきます。力の弱いちからものは、競争きょうそう相手の生き物い ものと、生活場所せいかつばしょを少し変えたり、昼活動ひるかっどうするか夜活動よるかっどうするかなどで、生活時間せいかつじかんを変えたりして、自分たちの生きていく道みちを見つけていくしかありません。そして、その生き方い かたにあったような体からだのつくりしんかに、進化しんかしたものが生き残るい のこのです。

地中ちちゅうにもぐったモグラが生き残い のこった

モグラは、昔むかしは地上ちじょうでくらしていたらしいのですが、えさのとりあいに負けたま力の弱いちからものは、競争きょうそう相手のいない地下ちかにもぐって、くらすようになったようです。

土の中つち なかは、1年中ねんじゅう、温度おんどや湿り気しめ けなどの変化へんかがあまりなく、こわい敵てきもいません。モグラすの好きな、ミミズちゅうやこん虫ようちゅうの幼虫ちゅうなど、えさはたくさんあります。そこで、モグラは、地中ちちゅうでくらすのからだにあった体からだのつくりしんかに、だんだん進化しんかしていきました。地中ちちゅうにもぐったモグラなかまの仲間いだけが、生きのびてきたともいえます。

あなほり名人めいじんの体からだになった

モグラは、シャベルまえあしのような前足つち、ほった土うしをけるのあしにあった後ろ足つち、土うしをほりかえせるとがった強いつよ鼻はな、土つちが入はいってこないようになった耳みみや口くち、必要ひつようなくなって退化たいかした目め、など、トンネルほりにぴったりの体からだのつくりしんかになっていきました。（監修・今泉 忠明）

